

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：34311
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2016～2019
 課題番号：16K04722
 研究課題名(和文) 看護学生用チェンジエージェント能力を向上させる教育プログラムの開発と有用性の検討

研究課題名(英文) Development and usefulness of educational programs to improve change agent ability for nursing students

研究代表者
 光木 幸子 (sachiko, mitsukimannsei)
 同志社女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：70269778
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：看護師は、慢性疾患を持つ人に対して、病気とともに暮らせるように今までの生活や行動に変化を加えながら、新しい生活や療養行動を取り入れられるようにチェンジエージェント(change agent)として機能している。しかし、看護師がどのようなチェンジエージェントの機能を果たしているのかは、言語化されてこなかった。そこで本研究は看護師のチェンジエージェントスキル尺度を開発することを目的とし、10名の看護師を対象とした質的研究から194項目を作成し、110項目に厳選した後看護師320名に対し尺度の信頼性妥当性の検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者に対して病気とともに暮らせるように今までの生活や行動に変化を加えながら、新しい生活や療養行動を取り入れられるようにチェンジエージェント(change agent)として機能の要素を明らかにすることができれば、看護師が行っている業務を可視化でき、どの程度培っているのかを測定することができる。このことは、看護の業務量や実践されている看護の質を明らかにすることにもつながり、質の高い看護を提供することにつながる。

研究成果の概要(英文)：Nurses act as change agents for people with chronic illnesses so that they can live with them, changing their lives and behaviors so that they can live with them, while incorporating new lives and recuperation behaviors. However, what kind of change agent nurses perform the functions of the change agent has not been verbalized. The purpose of this study was to develop a change agent skill scale for nurses, and 194 items were prepared from qualitative research on 10 nurses, and after carefully selecting 110 items, the reliability of the scale was examined for 320 nurses.

研究分野：看護教育

キーワード：看護師 チェンジエージェント 糖尿病 療養行動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平成 24 年国民健康・栄養調査によると、糖尿病が強く疑われる人と糖尿病の可能性を否定できない人を合わせて 2050 万人であり、70 歳以上の 3 人に 1 人の割合となる。平成 24 年度の糖尿病の医療費は 1 兆 2,088 億円で合併症である心疾患 5 兆 7,973 億円、腎疾患 2 兆 144 億円を加えると、9 兆 205 億円を上回っており、糖尿病をうまくコントロールすることが大きな課題となる。慢性疾患である糖尿病は、病態生理学的基盤も重要だが、それのみで語ることはできない。

長期にわたりケアを提供する時、「病気とともにある個人及び患者の体験に焦点をおく」ことによって、「病いとともに生きる方策」を個人が見いだすことができると考えられている。慢性病を抱える人は、多くの苦悩を抱えていることが、糖尿病(光木ら,2004)、慢性閉塞性肺疾患患者(松本ら,2006)、腎不全(上原,2004)、心筋症(坂上ら)により明らかにされている。なかでも糖尿病は症状が表れにくく、生活そのものが治療となって一生継続していかねばならない。健康を喪失してしまったという自責感を抱きながら新たな生活を作っていくという作業は容易なことではない(光木ら,2004)。また自覚症状のない時期に糖尿病をコントロールすることは、腎不全、脳血管障害、心筋梗塞などのさらなる慢性病の予防にもつながる。

慢性病を持つ人の支援の場は病棟、外来、施設、地域など様々でその人の生活や慢性病の状態に合わせてそれぞれの場で看護師はチェンジエージェント(change agent)として実践している。チェンジエージェントは、特別な新しい事柄の導入や新しい行動を促進するのを助ける。対象との関係性を持ちながら 7 つのプロセスで変化を促すように働きかけるとされている。

近年、高齢化社会の到来や医療の高度化、看護行為の制約等、社会や保健医療を取り巻く環境の変化と、更には学生の多様化に伴い、臨地実習のあり方と教育内容の工夫が求められている。

慢性病とともに生きる人が増加する中、チェンジエージェントの能力を備えた学生を育成する必要がある。現在の基礎教育では、慢性疾患患者の体験の理解、教育学・心理学や社会学から生み出された概念や方法論を用いて、療養に必要な専門的知識を提供することに主眼がおかれている。つまり、心理学や社会学の概念や方法を用い、コミュニケーションをとおして、患者との信頼関係をつくり、情報提供した後、慢性病とともに生きる人が自分の生活や行動を変化させていく過程で、看護師がどのような関わりをしているのかは、言語化されてこなかった。実際にどのような方法でどのようなプロセスで、どのように目標を設定して生活や行動を変えるのかは、担当した看護師の経験知と実践能力にゆだねられている。これらの実践能力の要素を明らかにすることができれば、看護実践能力を可視化でき、どの程度培っているのかを測定することができる。このことは、看護の業務量や実践されている看護の質を明らかにすることにもつながり、看護の専門性や学問の発展に寄与できると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、合併症出現前の糖尿病をもつ人に関わる看護師チェンジエージェント能力尺度を作成し、看護学生用チェンジエージェント能力を向上させる教育プログラムを作成し、その有用性を検討することである。

3. 研究の方法

看護師のチェンジエージェントスキル尺度開発

研究 質的内容分析による構成概念の抽出と尺度項目の作成方法

2017 年 5 月～12 月に臨床経験を有する看護師 10 名に対して、9 つの質問を用意し、半構造化面接法インタビューまたは自由記述形式で回答を依頼した。6 名の看護師に対しては面接の内容をボイスレコーダーで録音し、逐語録としてまとめた。また、4 名の看護師からは自由記述により回答を得た。面接の逐語録等は看護師 1 名、心理専門家 1 名で検討しながら、意味のある文節単位に区切り、KJ 法を参考に心理専門家 1 名、看護学の教員 1 名で検討会を実施し、質的内容分析をおこなった。分類では、質問項目別に構成内容、サブカテゴリ、カテゴリへと抽象化をおこなった。

カテゴリ分類から質問項目を抽出し、予備調査として糖尿病看護の経験のある看護師 6 名に対して、自記式質問紙を用いて各項目に対して、実行しているか、重要であるかの 2 点について○か×の 2 件法で回答を求めた。得られた回答をもとに心理専門家 1 名、看護学の教員 1 名で検討会を実施し、質問項目を厳選した。質問項目を厳選するにあたって、可能な限りサブカテゴリから 1 項目を抽出すること目標とした。

研究者の所属の倫理審査委員会の承認を得て、対象者には、研究趣旨とプライバシー保護について説明をおこない、研究への参加は自由意思であることとし、同意を得た。

研究 看護師チェンジエージェントスキル尺度の項目分析による尺度の信頼性の検討

研究 では看護師チェンジエージェントスキル尺度の尺度項目の信頼性を確認するため Web による調査を実施した。約 400 万人のモニタを有する Web 調査会社に依頼し、20～59 歳までの看護師をサンプリングした。回答者数が 300 名を超えた時点で調査を終了するよう委託した。調査は 2019 年 3 月 20～22 日に実施した。調査では看護師 320 名(男性 48 名、女性 272 名、39.84 ± 9.62 歳)から回答を得た。質問項目は臨床経験年数、糖尿病看護の臨床経験の有無、糖尿病に関わる資格の有無等の属性項目、NDESS(溝上・當目, 2018)と研究 で作成した 110 項目からなる自作の尺度(以下、看護師チェンジエージェントスキル尺度)であった。110 項目は教示文を『糖

尿病患者への療養支援するとき、今のあなたの状況についてお答えください。以下の事柄について、どの程度できる自信があるか「(1)まったくできない～(6)非常にできる」のうち、当てはまる数字を教えてください。」として、6件法で回答を求めた。また、110項目と項目数が多く、項目の順序の効果が出る可能性があるため、項目は回答者別に並びがランダムになるように提示された。

調査に同意を得た回答者のみが、専用のWebページに進み、全回答終了後にWeb会社より謝礼が支払った。また、Web調査会社と回答者との間で契約されたプライバシーポリシーに準拠した。加えて研究者の所属の倫理審査委員会の承認を得て調査を実施した。

4. 研究成果

看護師のチェンジエージェントスキル尺度開発

研究 質的内容分析による構成概念の抽出と尺度項目の作成

患者の問題点、目標設定、行動変容ステージ、環境の調整、プロセス促進、障壁の除去、患者家族への関り、逆戻りの対応、療養行動の維持に関する質問に対して、質的内容分析の結果、カテゴリ43個、サブカテゴリ86個、及び構成内容224個を抽出することができた。この質的内容分析ではチェンジエージェントスキルを測定するための194項目を作成することに成功した。

さらに、糖尿病看護の経験のある看護師6名に質問項目実行しているか、重要であるかの2点について○か×の2件法で回答をもとに検討会を実施することで110項目に厳選することができた。構成内容が224個であることから、チェンジエージェントスキルは多岐にわたることが明らかとなった。しかし、研究においては予備調査の6名分のデータしかなく、作成された質問項目の信頼性を裏付けるため、より規模の大きい調査が必要であることが課題として残された。

研究 看護師チェンジエージェントスキル尺度の項目分析による尺度の信頼性の検討

各項目の正規性を確認するため、反応分布、平均値と標準偏差から天井・床効果を確認した。一貫性の確認には修正のないI-T相関分析を用いた。項目の妥当性を検証するためにはNDESS合計点との相関分析をおこなった。反応分布では各項目の平均値が3.94～4.51点と最大値の6点よりではあったが、片側分布、二項分布は見られなかった。また、全項目とも天井・床効果は認められなかった。I-T相関分析では相関係数が0.76～0.90と有意な強い正の相関関係が認められた(いずれも $p < .01$)。NDESSの合計点との各項目の相関係数は.595～.706といずれも有意な中等度以上もしくは強い正の相関関係が認められた(いずれも $p < .01$)。

各項目において、片側分布・二項分布がなかったこと、天井・床効果が認められなかったことから、正規性は確保された。また、I-T相関分析では、すべての項目において、相関係数が0.70以上と強い相関関係があったことから、一貫性も確保された。また、NDESSとすべての項目で中等度以上の相関関係が認められたことから、併存的妥当性も高いことが明らかとなった。これらことから、今回作成した看護師チェンジエージェントスキル尺度は高い信頼性と妥当性を有していると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 光木幸子	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 糖尿病患者に対する療養上の問題の明確化と新たな目標設定に向けた看護師の支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 光木幸子
2. 発表標題 糖尿病患者の療養上の問題を明らかにする看護師の関わり
3. 学会等名 日本慢性看護学会第13回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 光木幸子
2. 発表標題 糖尿病患者の療養行動が逆もどりした時の看護師の支援
3. 学会等名 日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	葉山 有香 (hayama yuka) (30438238)	同志社女子大学・看護学部・講師 (34311)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田村 沙織 (tamura saori) (50756210)	同志社女子大学・看護学部・助手 (34311)	
研究分担者	小笠 美春 (ogasa miharu) (70544550)	同志社女子大学・看護学部・講師 (34311)	
研究分担者	當目 雅代 (toume masayo) (20259435)	同志社女子大学・看護学部・教授 (34311)	